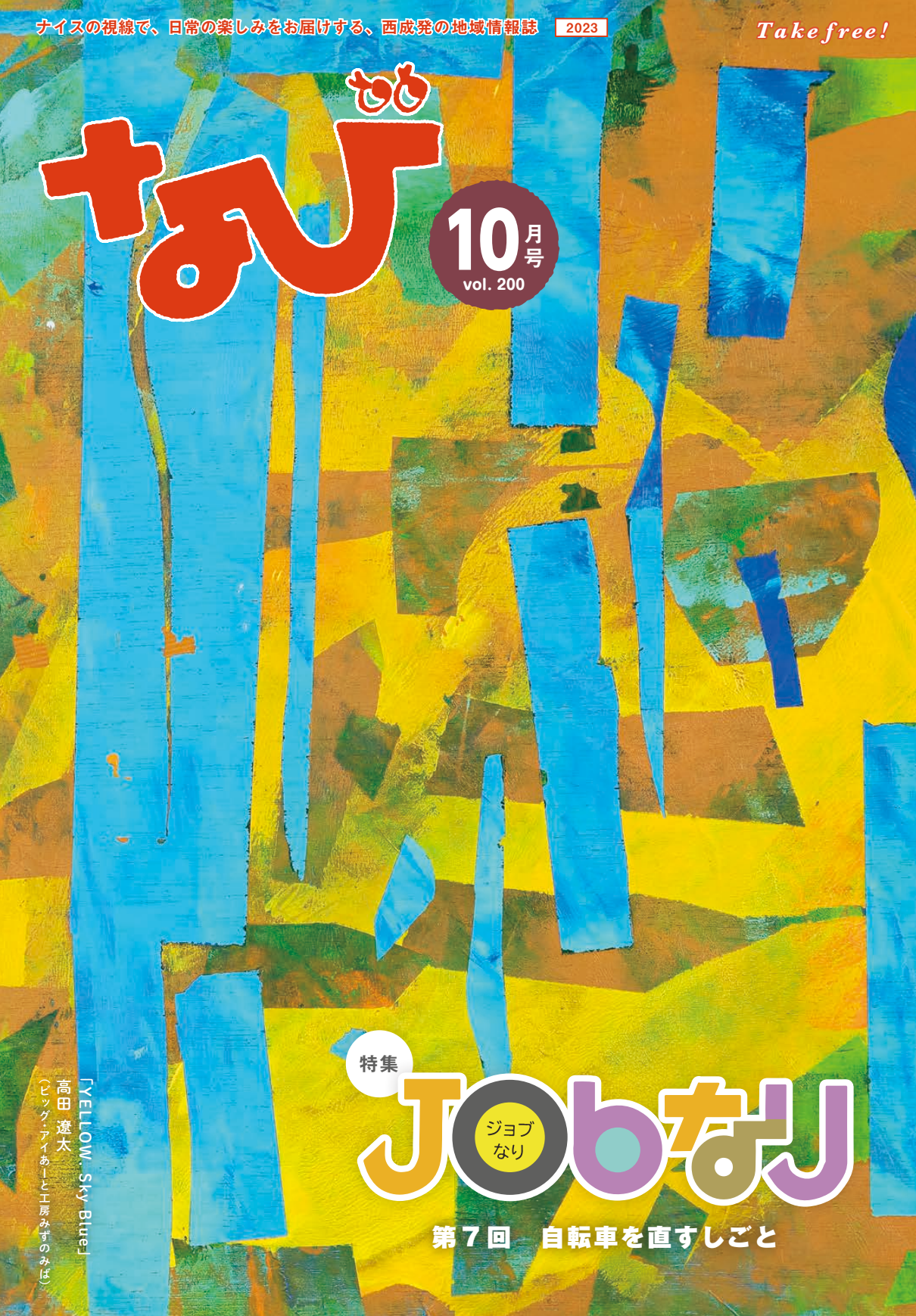
ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌 2023

Take free!

なび

10月号
vol. 200



「YELLOW. Sky Blue」
高田 遼太
（ビッグ・アイあーと工房みずのみば）

特集

JObなり

ジョブなり

第７回　自転車を直すしごと

JOBなり

ジョブなり

「これが私の仕事也」。
17,000 以上もある日本の仕事のなかから、西成で働く人々の仕事の流儀を学んでみよう。誇りを持って仕事をするってどんなだろう？
そんな仕事を学べる時間はけっこう少ないのかも。

第7回　自転車を直すしごと

お久しぶりの「JOBなり」

『なび』読者のみなさんはこのコーナーを覚えているだろうか。右頁にも書かれているように、西成で働く人の仕事の流儀を学び取材する「JOBなり」である。なぜ本文でこのような説明をしているかと言うと、10カ月ぶりだからである。「そんなコーナーがあったかな?」と思う人は2022年12月号の『なび』を見て思い出してほしい。

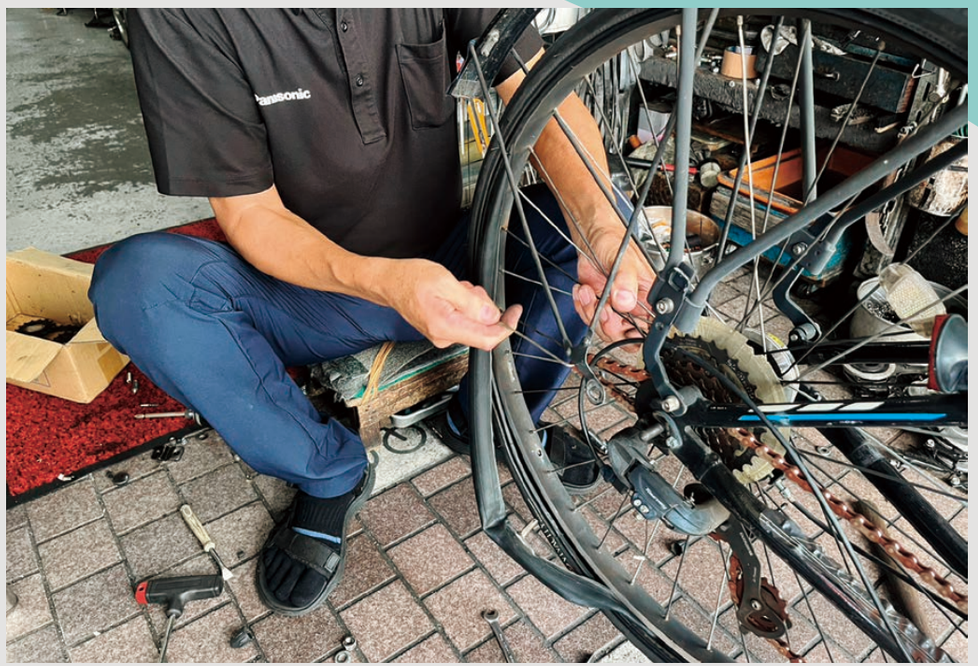
さて、読者のみなさんの記憶を呼び起こしたところで少し質問タイムを取りたい。みなさんが移動に最も多く使う乗り物はなんだろうか。車、バイク、電車、徒歩、自転車とさまざまだと思うが、筆者は専ら自転車派である。ロードバイクと言えば健康的でスポーティな感じがするので、そう言いたいところだが、バリバリのママチャリである。天王寺や難波に自転車で行ける交通アクセス最強の西成に住んでいる人は自転車派が多いはず。そして、その自転車派にとって切っても切れないのが、自転車の修理である。チェーンが外れたくらいであれば自分で直せる方もいるだろうが、パンクやチューブ交換、ブレーキの故障はそうはいかない(筆者はチェーンが外れても直せない)。そうなると自転車屋さんは無くてはならない存在である。

前置きが長くなったが、今回のJOBなりは自転車のお医者さんである「中尾の自転車屋」のお仕事を取材した。

自動車整備士から自転車屋へ

「中尾の自転車屋」は創業70年以上の老舗であり、現在の店主である中尾さんは3代目である。創業者は中尾さんのお父様。中尾さんが中学生のときに亡くなられてからは、お母様が跡を継いだ。中尾さんは高校卒業後に3年間民間企業で自動車整備士として働いていたが、22歳の時にお母様の跡を継ぎ3代目店主となった。

「自動車」と「自転車」は一文字違いだが、全く異なる代物だ。いきなり跡を継いで、修理ができるものなのかとたずねた。本来であれば、他の同業会社で働き経験を積んでからの独立、または専門学校などで勉強をしてから開業が普通だが、当時は自転車メカニックなどの専門学校は無かったようだ。「自分で言うのもなんやけど、元々手先が器用だったので、そこまでは苦労しなかった。しかし、始めた当初は何をどう直せばいいのかわからないことがもちろんある。そういうときは、他の自転車屋へ持っていって、修理の工程を見て覚えるようにしていた」。事情はよく分かったが見て覚えるのは極めてセンスが必要だと思う。外れたチェーンすら直せない筆者にとっては羨ましい限り



である。

また、販売する自転車も今であれば、ほぼ完成された状態で納品されるが、当時は部品ごとにバラバラの状態で納品され組み立てる必要があった。その組み立てが自転車の構造の勉強になったそうだ。今となっては難しい修理は無いそうである。才能ある人は羨ましい限りである。

パンク修理のもろもろ

自転車の修理依頼で最も多いのはパンク修理である。パンクの理由は様々だが、昔のパンクエピソードが印象的だった。みなさんご存じのとおり、革靴製造は西成の地場産業であるが、革靴に使われるタックスという釘が道ばたによく落ちており、これが自転車のタイヤに刺さってパンクというのが頻繁にあった。多い時で1日に10台ほどがタックスを踏んでパンク修理に来たそうだ。今では、タックスを踏んだパンクは年に1回あるかないからしい。当時パンクした人には申し訳ないが時代の変化を寂しくも感じた。

パンクは修理自体よりもパンクしているか否かの判断が難しいそうだ。みなさんが思い浮かべるパンクチェックの光景はタイヤのチューブを水に浸けて、空気の漏れを確かめる方法では

ないだろうか。実はタイヤに空いた穴が極端に小さいと、2週間～1カ月ほどかけてゆっくりと空気が抜けていく場合があり、このような穴は水に浸けてもわからないことがあるそうだ。

そして実は、タイヤの空気が無くなる原因には、パンクの他にもムシゴム（タイヤの空気止め）の劣化がある。特に夏場の暑い時期はムシゴムが傷みやすく、パンクと勘違いして持ってくる人が多い。筆者も取材にちょうどいいと思い、タイヤの空気がベコベコに無くなった自転車の修理をお願いしたが、これもムシゴムの劣化だった。「ここが切れてるやろ」と新品と比べて見せてくれたが、正直なところ色の違い以外は全くわからなかった。腕だけではなく目も職人になるのだと感じる。

地域に寄り添うお店

取材中もたくさんのお客さんが中尾さんの元を訪れていた。おじさまや親子連れなど年齢層も広く、印象的だったのがどのお客さんも中尾さんに修理とは別の話をしていたところだ。普段からお客さんとの関係を大切にしているからこそある、地域密着型のお店だと感じた。ちなみにお客さんと話している間も中尾さんの手は別の生き物のように動き続けテキパキと修理が

進んでいく。その姿は男前そのものである。Ｇｏｏｇｌｅの評価が4・7も納得の数字である。

さて、恒例の質問――この仕事をする上で大切にしていることは？ 中尾さんは少し考えてから「お客さんが気づかない所をしっかりと見てあげることかな。パンクの修理で持ってきた自転車が、別の部分をメンテナンスした方が良い場合がある。乗っている人は気付いてないけど、こっちでしっかりと見てあげて、お客さんにしっかりと伝えてあげることを大事にしている」。

自転車は誰でも気軽に乗れる乗り物だ。しかし、もしブレーキが突如効かなくなったら事故につながり、時には命を失うこともある。命を預ける自転車の医師である「中尾の自転車屋」。これからも西成の自転車屋として、地域の人に寄り添い、安心と安全を守ってくれるだろう。

次、自転車を買うときと修理するときは「中尾の自転車屋」にしようか。と思いながら、タイヤに空気がパンパンに入った自転車に乗って、帰路についた。

文責：山村裕太

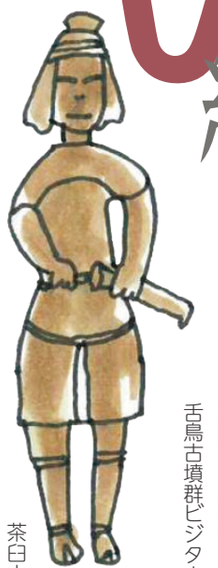
中尾の自転車屋
住所：西成区南開2の2の4
営業日：月曜日～土曜日
9時～18時
定休日：日曜日

楽塾 遊び編 6

毎週土曜日開催の楽塾は23年夏に開塾16周年を迎えました。楽塾の理念は〈あそびを学び、まなびを遊ぶ。新しい学校の冒険〉。様々な地域や場で多彩な居場所づくりに汗する人々に、参考にしてもらえればと思いました。これまでに行った〈あそび〉を隔月連載で紹介します。

古墳！

楽塾では時おり古墳の話をします。バイク好きの塾生たちが「この前、古墳を走ってきた」と話題にし、姉妹校豊中塾でも古墳巡りをしました。今回は身近な古墳をテーマに、いつもと違う〝番外編〟の話題としました。身近にある街の風景に遊びましょう。



百舌鳥古墳群＝大仙陵古墳・反正天皇陵古墳（堺市堺区）

6、7年も前、楽塾は百舌鳥古墳群のうち「大仙陵古墳」や「反正天皇陵古墳」へピクニックしました。とくに大仙陵古墳は三重の濠を持つ前方後円墳。その巨大さは日本最大級で、宮内庁は大仙陵こそ仁徳天皇陵だと言い、それを疑問視する研究者も多いのです。陵墓周辺には被葬者の臣下墓である陪塚も多数見られます。

反正天皇陵は大仙陵から北へ約1キロ。南海高野線堺東駅付近の住宅地に囲まれた前方後円墳です。反正は仁徳の子で、「宋書倭国伝」などの倭の五王（讃・珍・済・興・武）では珍と伝わりますが、『記紀』では反正に関する記述はかなり少ないのです。この古墳周辺を民家が取り囲み、珍さんにとってはちょっと住み心地が悪そうです。

●大仙陵＝JR阪和線百舌鳥駅・南海高野線三国ケ丘駅すぐ。反正天皇陵＝南海高野線堺東駅すぐ。電話：072-245-6682（百舌鳥古墳群ビジターセンター）

今城塚古墳（高槻市郡家新町）

茨木市内にある「太田茶臼山古墳」は、宮内庁管理の継体天皇陵墓です。しかし高槻市内の「今城塚古墳」で埋蔵物や埋葬施設など発掘調査が行われた結果、今城塚が真の継体天皇陵とされ、現在継体天皇論議が盛んに行われています。

継体天皇は越前の有力者で、大和の豪族間抗争のなか登場して大王となり、筑紫の磐井殺しは教科書等で習いました。今城塚古墳もまた二重の濠を持つ大規模な前方後円墳。埋蔵埴輪のレプリカが陵墓北側にある張出（祭祀場）に多数展示されており、圧巻です。高槻市営の古墳公園として出入り自由で、親子連れや子どもたちが集う気持ちの良い古墳です。

隣接する『高槻市立今城塚古代歴史館』では、この陵墓から発掘された大らかな埴輪（家形・様々な職種の人形・鳥形・甲冑形など）や、石棺、土師器、須恵器など多くの土器類が展示されています。埋蔵品や遺跡に興味ある人たちには必見です。

●JR京都線摂津富田駅から徒歩約30分。駅前から今城塚古墳前行きバスあり。電話：072-682-0820（高槻市立今城塚古代歴史館）

①大仙陵古墳 ②反正天皇陵古墳

③太田茶臼山古墳 ④今城塚古墳

五色塚古墳（神戸市垂水区）

数年前、初めて「五色塚古墳」の頂きに立ち、北に六甲山系、南下に瀬戸内海を眺めたとき、明石海峡大橋の終着となる淡路島が眼前に迫り、その雄大さが今も記憶に残ります。巨大な古墳で「仲哀天皇」の墓とされます（※）。ただ古市古墳群（藤井寺市／世界遺産）に宮内庁治定の大規模古墳である仲哀天皇陵があり、この陵墓も未知な物語を秘めています。

五色塚は、当時淡路島から運ばれたという黒い葺石（古墳の墳丘斜面に敷く礎石）と、1960年代に始まる復旧工事により築かれた白い葺石との調和が美しく、現在優美な姿を見せてくれます。古墳の多くは繁茂に任せた森の塊のイメージがあり、ドローンなどで上空から景観を見るほかないけれど、五色塚は古代人が築いた技術を受け継ぎ、新たに造営された開放的な古墳で、地域の人たちによるイベントがこの地でよく催されています。

●JR山陽本線垂水駅から徒歩15分程度。電話：078-707-3131（五色塚古墳管理事務所）

※諸説のうちの一つです。

えと文：楽塾 佐々木敏明

⑤高槻市立今城塚古代歴史館のジオラマ

⑥五色塚古墳 ⑦バイクで五色塚へ

[笹川勝正] 子どもと一緒に某漫画雑誌のイベントに参加。開場30分前に着いたのにすでに大行列でびっくり。日常が戻りつつあることを嬉しく思いながら、始まる前にすでにぐったりでした。

[沖田一志] ガソリンの補助金ってどう思います？大きな車に乗ってたくさんのガソリンを消費する人が最大の受益者ですよね？軽自動車よりもレクサスの方が多く補助金を受けられる気がします。

[谷口円] Adobeの生成AI「Adobe Firefly」がついに正式版となり、商用利用もOKに。業務に使いたい気持ちもあるけど、賛否両論あるしAIを使うことを事前報告すべき？とか、まだちょっと悩ましい。

[田岡秀朋] 府の福祉施設からの一般就労者数は増加の一途で、23年度目標を22年度（2841人）に達成した。ただ、身体・知的は5年前から横ばい。精神は倍増。そろそろ数だけでなく、中身（質）にも注目したい。

西成の地域を忙しく走り回る日々を送るおかん。仕事で出会った人びとの生活の一コマをため息まじりにつぶやきます。※本文は関係者各位の許可をとって掲載しています。

おかんのため息

●おかん はぁ…。今日は最初からまじめやで。

◆息子 わりといつもそうやで。

● そうかな。まぁ、ええわ。人が亡くなっていくのを見届ける〝看取り〟って誰でもそういうときが来るやろ？ でも、家族がいるのと身寄りのない独居では事情がちがう。

◆ そらそうや。

● 藤井さんは独り暮らしやってんけど、その看取りをどうしようって訪問介護事業所のスタッフが手探りでやりはってん。

◆ ほぉ。

● それが奥深かったから、半分ドキュメントタッチでお送りします。

◆ じゃ、頼むわ。

● 藤井さん、いろんな持病あったけど、その日は朝から具合がだいぶ悪かった。朝に自宅に行ったヘルパーさんからサービス提供責任者（サ責）の湯田さんに連絡。普通なら、救急搬送で病院に行くところを、サ責の湯田さんは藤井さんの「家で死にたい。病院・施設は絶対イヤだ」って言葉を覚えてはって。

◆ ほう。

● それは利用者さんの尊厳やし、その思いに寄り添いたい、在宅で自分たちが〝看取り〟たいと思ったんやて。

◆ けど、大変そうやな。

● そうや。まずは医療側と相談。駆けつけてくれた看護師さんと救急搬送すべきかどうか話したらしい。湯田さんは、救急搬送された利用者さんがほとんど帰ってこれんこと知ってたし、看護師さんも「病院でできることはたいてい自宅でもできるよ」って。

◆ じゃ、「在宅」したの？

● 判断するのはお医者さんやケアマネさん。お医者さんはわりと在宅のための工夫を教えてくれた。ケアマネさんは「私もできたら在宅で最期を迎えたいと思ってる。でも、あなた無理でしょ？」って。たしかに事業所で〝看取り〟＝ターミナルケアは難しい。

◆ まぁ、そうやろうけど、なんで？

● ヘルパーさんが「訪問するのが怖い。亡くなってたらどうしよう」って不安になる。無理ないよな。ケアマネさんもその取りまとめが難しいこと知ってるんやな。

◆ いったい誰がまとめるんや。

● 湯田さんが〝やる〟って言うねん。それがサ責の仕事や、「ヘルパーさん全員をサポートするから」って。そのためには情報量。「不安があるのは情報が少ないからやと思う」。今はたくさんの情報をすぐに共有できるツールをみんなが持ってる。「不安に思うことはなんでも言ってきてほしい」とサポートの姿勢を示すことも大切。けど、湯田さんに感心するのはそこやないねん。

◆ え、他に何があるの？

● ヘルパーさんを説得する理屈やな。「亡くなることは怖いことでもないし、あなたの責任でもない。じゃ、責任取れるか、人の命って？ 私もよう取らん。責任を云々じゃない。藤井さん本人がどう過ごししたいかってことに寄り添うだけのこと。それしかできひんのよ」。

◆ なんか強引な気もするけど。

● そうかもな。でも、おかんは「利用者に寄り添う」っていう介護職の本来の〝使命感〟に訴えてるように思うな。知らんけど…（つづく）

［安田拓也］このお盆は久々に仏さんに手を合わせ、親戚ともゆっくりと話ができた。この機会に祖父母にプレゼントを贈ってみた。毎朝歩く祖父に首掛け空調を、毎日手料理を続ける祖母に包丁を。

［福井龍磨］宮沢賢治と小林多喜二を読み進めている。賢治は岩手、多喜二は秋田生まれの北海道育ち。寒さ厳しく、飢饉の多い過酷な風土だったからか、北国の人が書く文章は眼差しが深く、足腰が強い。

melody of Smiles

子どもたちが大好きなRooftop Playground（屋上園庭）の人工芝を新しく張り替えました♪ きれいになった芝の上でおもいっきり遊びましょうね☆ また、人工芝の横には、みんなで植えたさつまいもがすくすく育っています☆ 秋の収穫が楽しみです！

GCC Kids International School

たくやの畳間 ろくじょうふたま

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

心の壁を超えるもの

〝感動〟や〝安心感〟のような、人の心の壁を越える存在とは何だろう。

例えるなら、感動は心の壁を突き抜ける槍の様な鋭さのイメージ。〝シビれる〟とはその際の抵抗か。安心感はキメの細かな気体に近い。知らぬうちに心の内側にいて、壁を通過したことさえ気づかない。純度が高く洗練された表現には、そのような力がある。

とあるヴァイオリン演奏を聴いた。技術もさることながら、楽曲全体の表現、それを構成する一つ一つの音とその繋がり、どこを切り取っても美しい。彼女の動きに音楽に必要なもの以外はなく無垢。

数百年も前に作曲された、録音技術が無い時代の音楽。楽譜しか手がかりはない。しかし、曲と彼女との間には、時の隔たりや数々の指導者の意思といった〝あるはずのもの〟がなく、全てを超えて、まるで彼女のために作曲されたかのよう。

ひとたび演奏が始まれば空気が変わり、演奏後は歓喜に包まれるような音楽。叶わないかもしれないが、自分もいつかそんな音楽を届けたい。

（安田拓也）

［西田吉志］最近、首こり・肩こりが本当にひどい。整骨院に行っても、自分で調べたストレッチを試してみても２～３日すると重たく痛みがでる。何か良い方法があれば教えてほしいです。

葉っぱの吐見（といき）

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。

「松ぼくり（松笠）」の巻

丸くて小さなわたし。
転ぶとコロコロ止まらない。
細くて長いわたし。
転ぶとポキポキ音がする。
太くて大きなわたし。
転ぶとドスドス足鳴らす。
硬くて短いわたし。
転ぶとカラカラ笑いだす。
樹木とお別れしたわたし。
今までお世話になりました。
落葉に出会ったわたし。
どうぞよろしくお願いします。

赤井まゆみ

松ぼくりのこと
マツやスギなどの針葉樹が種（種子）を守る器官。花言葉は「不老長寿」「永遠の若さ」

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちで皮算用していることを語っていくよ。

11月4・5日の２日間、西成区・浪速区の３会場で靴と革をテーマにO-Round（オーラウンド）というイベントが開催される。西成・浪速の靴皮革産業を社会に発信し、ものづくりや皮革に対するイメージの刷新を図り、皮づくりや靴づくり、太鼓づくりの職人さんの社会的地位の向上やブランド構築など、今後の取り組みに連なっていく最初のイベントだ。西成、浪速のイメージアップに資するだろう。なお、このイベントは経済産業省の「皮革産業振興対策事業費補助金」をうけている。

有名タレントさんにもご協力いただいて楽しいイベントにしようと実行委員会では開催に向けて努力を続けている。ポスター、チラシも皆さんのお目に留まることもあるだろう。多くの方に来ていただきたい。みんなで楽しもう。

（寺本良弘）

いい湯かげん

トイレで人権を考えた

最高裁判決が、トランスジェンダー職員にトイレの使用制限を強いる経産省の対応を違法とした。なぜだか、『そよ風のように街に出よう』という言葉が頭をよぎった。

障がい者問題総合誌として創刊されたのは1979年。2017年の終刊まで38年間、「地域で共に生きる」ことがテーマだった。創刊号では、国連が日本の遅れを指摘する「インクルーシブ教育」につながる特集で、養護学校ではなく普通学校への就学を希望する梅谷尚司さんが誌面を飾った。

日本は国連から「分離教育」や「社会的入院」の早急な改善を求められている。ハートビル法（1994年）、交通バリアフリー法（2000年）、バリアフリー法（2006年）などの法整備によりハード面では及第点をもらえた。

㈱ナイスもバリアフリーにはこだわってきた。マンションの入居スペースだけでなく、テナントスペースにも車いすトイレを設置してきた。こんな狭い店舗スペースになぜ？と思われた方もいるかもしれないが、排泄保障は人間の尊厳にかかわる。食べるのと同じように、排泄も毎日のこと。そよ風のように街に出るには、トイレ問題は避けて通れない。だからこそ、公共施設でもないのにトイレにこだわってきた。今でこそ多機能・多目的・みんな○○と呼ばれるトイレがコンビニの標準仕様になったり、所在がわかるアプリも開発されたり、珍しくなくなったが、トイレ問題は車いすユーザーにとって外出を妨げる要因だった。

今回の最高裁判決は、①当該職員は女性トイレの利用を認められていたのに、勤務フロアから2階以上離れた女性トイレの使用を強いられるという不利益状態が続いていたこと、そして②トイレの使用制限の解消という当該職員の求めに人事院（経産省）が応じなかったことについて、他の職員への配慮を過度に重視する一方で、当該職員の不利益を不当に軽視するものであるとして違法とした。

戸籍上の性別変更をしていないことや他の女性職員への配慮の必要性を指摘する声もあるが、①性別適合手術を健康上の理由で受けられないこと、②性衝動による性暴力の可能性は低いという診断結果、③執務中も女性の身なりであったことなどから、職場の理解はある程度進んでいたと考えるのが妥当で、申し出に対して戸籍上の性別変更を求めるに終始した人事院に非があるとした。判決を支持したい。

ただ、2023年6月に施行された「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」では、差別解消・禁止に踏み込めなかった。現行法制では、性自認とは異なるトイレの利用という明らかな不利益があるのに、「すべての国民が安心して生活できるよう」という、マジョリティーへの配慮が大きすぎる。タイではジェンダーフリートイレが多数設置されているとも聞いた。何年後かには、日本でも当たり前のトイレ事情となってほしい。

冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

［若松司］

［山村裕太］自分の一言コメントを見返していると、マジメな事をほとんど書いていないことに気付きました。たまにはマジメな事を書いてみます。しかし、字数が足りないようなので、またの機会に。

地域の縁を心でつなぐ

松向寺のこころの時間

健康診断の結果が「病の疑いの為、精密検査を要する」だったので、「びびり」ました。でも同時に、病を持ちながらも懸命に生きている人々を思い出し、どのような結果でも現実を受け入れようと決めました。それでも、ふとした瞬間、不安に襲われました。幸いにも結果は「経過観察」。自分に使える「時間」が残されているという喜びと「頑張るぞ」と身体の芯から湧いてくる力を感じました。

五十年ほど前に流行った標語「せまい日本 そんなに急いで どこへ行く」をよそに、大阪から東京まで二時間三〇分と、科学の発展で時間の節約が著しい昨今です。しかしエンデが『モモ』で「人間が時間を節約すればするほど、生活はやせほそっていく。」と警鐘を鳴らしています。「青春18切符」を使って旅したり、夜を徹して友と語り合ったりしたかつての時間は、私のアイデンティティを形づくる節約不可能な大切な時間です。

最後に。病は症状が出てからでは遅いので健康診断を一つのご縁とされてはいかがでしょうか。

松向寺　通法

ココドコ

ここはドコ？
わたしはダ～レ？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

動物のオブジェが３つ、中心に向かって見つめ合うように配置されています。動物たちが何か未知のものと交信していそうな…ちょっと不思議な風景です。ココがドコだか答えを知りたい人は、ゆ～とあいの受付までお問い合わせください！

［先月号の答え］ 南津守1丁目2-36の、南津守さくら公園でした！セレッソ大阪スポーツクラブが入っていて、サッカースクールもやってます。

2022年6月撮影

ゆ～とあい

smile

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ～とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 10月号（vol.200）
発行日：2023年 10月 1日（創刊日：2007年 1月 1日）
発行：株式会社ナイス
住所：大阪市西成区長橋 3-6-33
電話：06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長：若松司
編集：沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、西田吉志、福井龍磨、安田拓也、山村裕太（あいうえお順）
イラスト：hidarimaki　デザイン：谷口円

（株）ナイス
ホームページ